



KOBE WOOD



2025年10月31日

神戸森林フォーラム 開催趣旨

ファシリテータ 黒田慶子



里山資源の活用必要性

林業の場所

- ・ 針葉樹（スギ・ヒノキ＝建築材）
- ・ 神戸では森林面積の1割

針葉樹人工林

神戸市北区有野町

里山広葉樹林

大木化・繁茂しすぎ

天然林とされるが**天然でない**

- ・ 薪炭・**肥料**＝農家の所有（**私有林**）
- ・ 1950年代から放置

放置のため暗い森に変化
→ **生物多様性の低下**

- ▶ 場所により**災害リスク上昇**
- ▶ 使って再生させる**資源循環が必要**

棚田の跡

北区淡河町

神戸市の森林をめぐる課題

森林は市域の4割, 2万ha

- ✓ 広葉樹林が9割
- ✓ 6割が私有林



税金による森林整備
では100年以上かかる

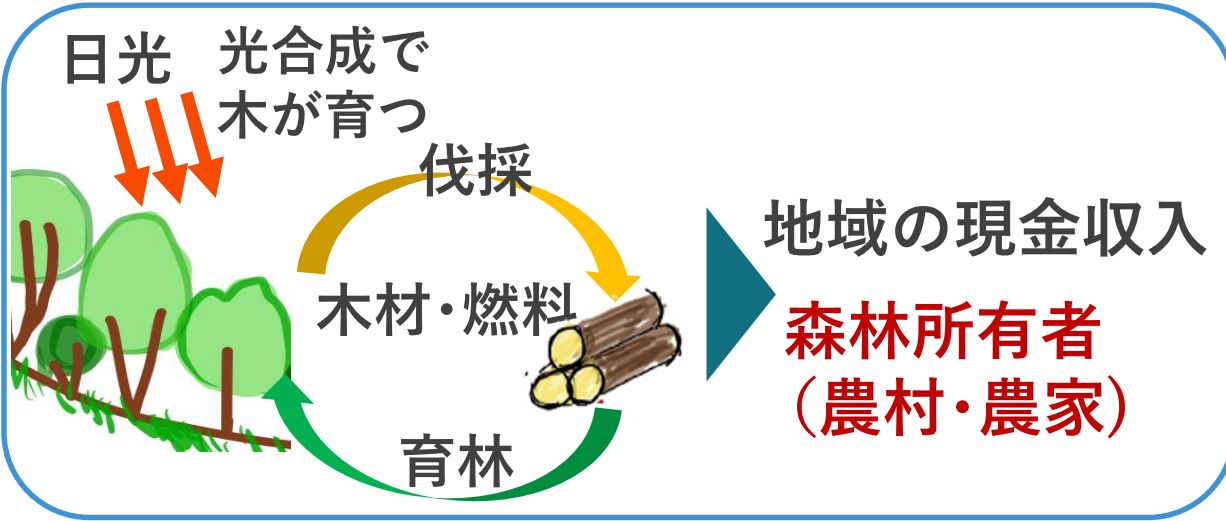
里山管理を再開するには
地元の収入が必要

そこで

- ✳ 広葉樹材の販売
- ✳ キャンプ場など観光資源としての活用

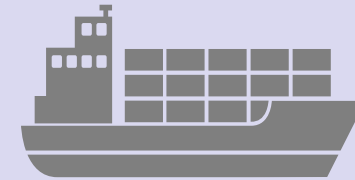
資源循環を取り戻して循環型社会へ

再生可能な資源を持続的に利用すること。
リサイクルとは異なる。



次世代林の育成～資源化
→ **資産価値**を上げる

1970年代から輸入依存の生活
大量生産・消費
木材輸入 (国内資源を放置)



お金の流れ
海外企業・商社

持続可能な社会か？
安全・安心な生活か？

神戸市が舵を切る方向

資源循環型の社会&経済

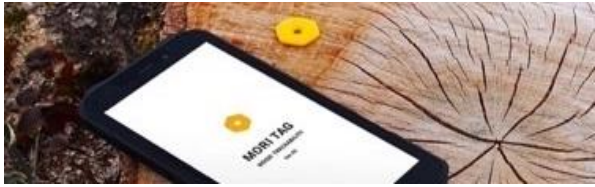
サーキュラーエコノミー

「資源の価値把握」と「流通を作る」神戸スキーム

○植林ではなく、今ある大量の資源をまず使う（リセット伐採）

○資源の質と量を**伐採前に**デジタルデータ化→販売

MORI TAG[®]システム



電子タグとスマホアプリ



Web画面で情報管理



伐採後の
森林管理

▶ **新たな流通システム**
売れたら管理できる
・・・行政が伴走

▶ **トレーサビリティ**

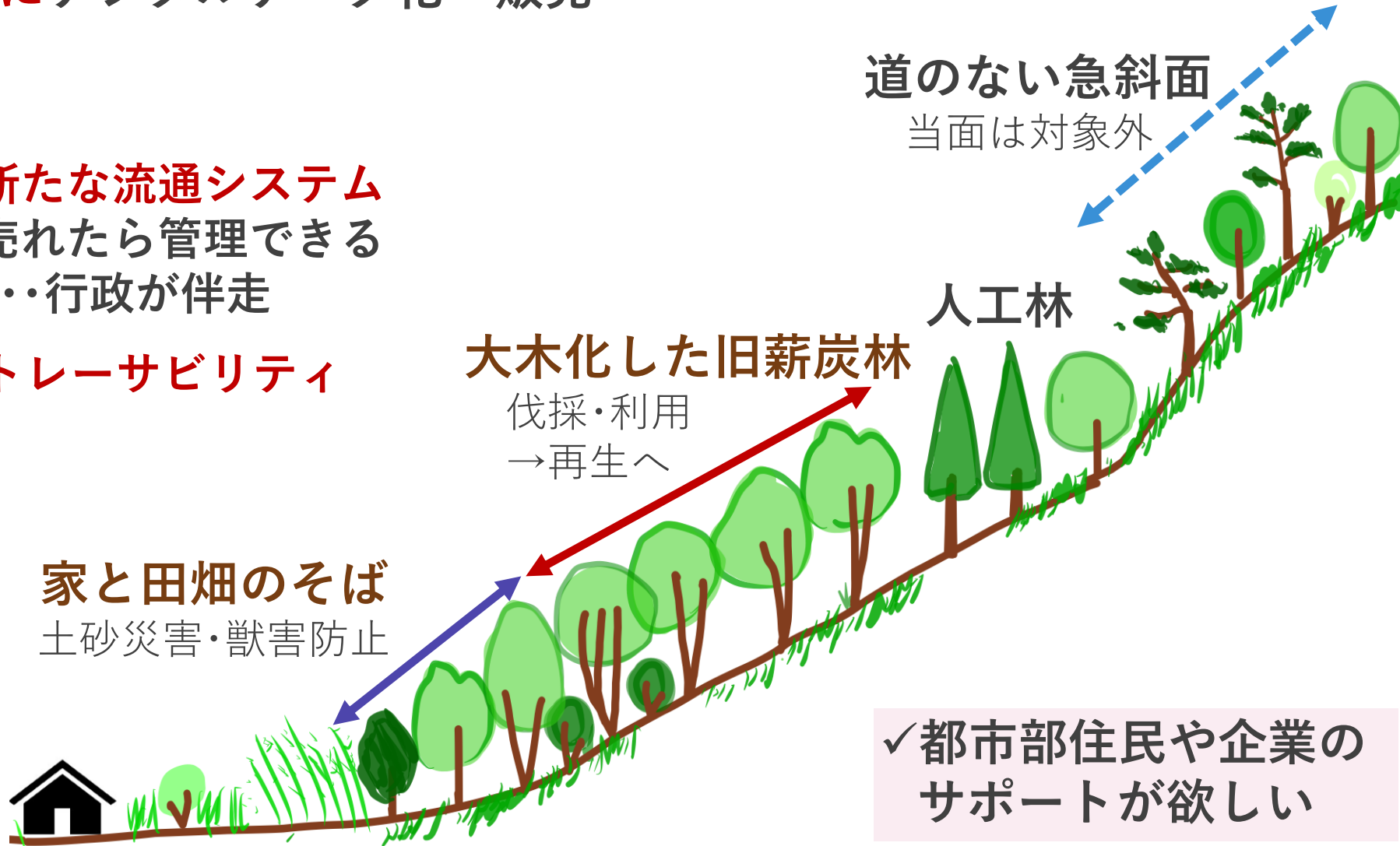
家と田畑のそば
土砂災害・獣害防止

大木化した旧薪炭林
伐採・利用
→再生へ

道のない急斜面
当面は対象外

人工林

✓都市部住民や企業の
サポートが欲しい



神戸で“今風”資源利用 ▶ 持続可能かつビジネスに



田畑の横には
まだこんなにある

伐採木の材積
100m³/0.5ha

神戸市北区淡河町勝雄



六甲山材見本

アベマキ/イロハモミジ/エノキ
クスノキ/ケヤキ/コナラ
シラカシ/リョウブ/ヤマザクラ



脇机：イロハモミジ



伐採3年後・・・森林再生へ

9

前のスライドと同一場所
2024年8月1日撮影

カラスザンショウなど先駆種が多いので、植生の誘導が望ましい

神戸市北区淡河町勝雄

切株からの萌芽
による再生

活用の選択肢：カシ類でKOBEB備長炭の生産

○付加価値の高い備長炭(白炭) 2千円/kg
▶神戸ビーフなどと地産地消が可能

○6トンの試し生産2回
▶事業者モニターで好評

— **神戸市で備長炭用炭窯設置の計画** —
森林資源の循環的利用を目指した事業
▶産業化

株式会社 四国の右下木の会社（徳島）
と事業連携協定を締結（2025.7.8）

